広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	E.M. グルネリウスの幼稚園教師になるための学び
Author(s)	杉岡, 幸代
Citation	HABITUS , 27 : 1 - 25
Issue Date	2023-03-20
DOI	
Self DOI	10.15027/53727
URL	https://doi.org/10.15027/53727
Right	
Relation	

E.M.グルネリウスの幼稚園教師になるための学び

杉　岡　幸　代

（広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期/大阪キリスト教短期大学）

はじめに

シュタイナー幼稚園 [1]は、その構想者である R.シュタイナー（Rudolf Steiner,1861-1925 以下、シュタイナーと表記する）が亡くなった翌年（1926 年）に、彼が自らの幼児教育構想を託した E.M.グルネリウス（Elisabeth Marie Adelheid von Grunelius,1895-1989 以下、グルネリウスと表記する）によって始められる。しかし、グルネリウスによるシュタイナー幼稚園の実践とシュタイナー自身が示した幼児教育構想との間に何がしかのずれ、つまり、グルネリウス自身が加味した要素があるのではないかという問いを想定する。というのは、グルネリウスによる実践が、すべてシュタイナーの理論・実践構想のもとで進められたと断定することはできない事実があるからである。確かにグルネリウスは、シュタイナーに師事し、その実践の基本原理をシュタイナー論に負うが、シュタイナーに出会う前に、すでにフレーベル精神に基づく「コメニウスゼミナール」で学び、州の幼稚園教師の試験に合格している。シュタイナーに出会った後にも、青少年指導者（Jugendleiterin）の資格を取得するために「ペスタロッチ・フレーベル・ハウス」でさらなる学びを進めている [2]。それゆえ、そこでの実習体験や学びが直接あるいは間接に、後のシュタイナー幼稚園の実践に反映されている可能性がある。この事実から、シュタイナー幼稚園での理論と実践の連結点を解明することは、シュタイナー幼児教育の本質と全

体像を捉え直すことに寄与できる点であると考える。

先行研究に、グルネリウスの実践をフレーベル教育学との関連から考察した論文が二本存在する。ヴァルドルフ幼稚園協会編纂の雑誌 *erziehungskunst frühe KINDHEIT -Waldorfpädagogik heute-*に掲載されたマキシミリアン・ブフカ（2019）の論文「ヴァルドルフ幼稚園の歴史（Geschichte des Waldorfkindergartens）」[3)]と馬場（2018）の論文「シュタイナー幼稚園の教育に関する考察−フレーベル教育との関わりから−」[4)]である。

ブフカは先述の論文において、最初のシュタイナー幼稚園はフレーベル幼児教育学に基礎付けられていたと明言する。グルネリウスの時代には幼児期の基本的な教育学としてフレーベル教育が教授されていたことをその理由に挙げる。ブフカは、グルネリウスの著書[5)]より「幼稚園は第一に、均衡の取れた調和の中で子どもが成長できる最高の生活環境が先行されるべきであり、それは常に母親のいる温かい理想的な家庭の雰囲気を持たなければならない」という記述を取り上げ、すでにフレーベルの主題をそこに見るとする。その上で、グルネリウスは、シュタイナーの説く就学前の人間形成のあり方を高く評価し受け入れ、生涯に亘ってシュタイナー幼稚園の教育に影響を与えたと結んでいる。

馬場の論文においても、ブフカが取り上げたのと同様のグルネリウスの記述箇所を取り上げ、シュタイナー幼稚園の教育の基本は家庭であり、ペスタロッチからフレーベルに受け継がれたこの根本概念がグルネリウスにも継承されたとする。さらに馬場は、フレーベルの幼児教育とシュタイナー幼稚園の教育実践を比較し、シュタイナー幼稚園の遊びは、フレーベル教育を基本にしながらも知的教育を重視するのではなく、子どもの想像力や芸術的な感性を考慮したものと結論づけている。

ブフカや馬場が指摘するように、シュタイナーから学んだ幼児教育論以外の

学びが、グルネリウスによるシュタイナー幼稚園の教育実践に影響を与えていたことも否めない事実であろうと推察される。しかし、フレーベル教育学を基本としていると結論づける点に関しては考察の余地を感じる。

以上のことから、グルネリウスの実践とシュタイナー論の連結点を解明していくために、本研究ではグルネリウスが学んだ「コメニウス幼稚園教師ゼミナール」と「ペスタロッチ・フレーベル・ハウス」の実態を明らかにし、彼女の教育体験を把握することを目的とする。

第一章　コメニウスゼミナール

コメニウスゼミナールは、1903 年より 1922 年までヘレーネ・クロスターマン（Helene Klostermann 1858-1935）によって率いられている [6)]。グルネリウスは、クロスターマンシェ女子高校終了後、このゼミナールに参加し 1914 年にこのゼミナールを終了する。その後、州の幼稚園教師の試験に合格する [7)]。この期間は、ちょうどクロスターマンがこのゼミナールを運営していた時期と重なる。

以下、クロスターマンについては、ベルガーの記述 [8)]を参考にする。

ゼミナールでのクロスターマン校長は、「フレーベルの『人間教育』の長く難しい文章を解説する際、これらを女子生徒たちに親しみしみやすくするために、たゆまぬ忍耐で、最高の理解と深い共感を持って重要な部分を取り出した」（Kley 1935、S.541）とされる。つまり、当時校長であったクロスターマンの教授法は、一言で言うとフレーベル（Friedrich Wilhelm August Fröbel, 1782–1852）の思想世界を非常に重要視したものであった [9)]。

また、ベルガーは、クロスターマンの記述を取り上げ、その思想について示している [10)]。以下に、ベルガーが示すクロスターマンのフレーベル理論の受容

やそれに基づく彼女の子ども観が汲み取れる箇所をあげてみる。

・延長された生活集団である「子ども=庭（Kinder=Garten）」で、その教育上の「課題を私たちは家族の補足として認識」（クロスターマン、1925、S.217）する。また、ここではチューリンゲン州のロマン派教育者の考えを継承し、子どもたちが「人生、人間存在（das Leben, das Menschentum）」（クロスターマン、1927b、S.401）に向かって教育され、植物のように育て、世話をされなければならない。

・まさに植物が神の保護の下、自然と調和した経験豊富で洞察に満ちた庭師の世話によって庭で手入れされるのと同じように、最も高貴な植物である人間、つまり初めは萌芽としての子どもから、広くは人類の構成員となるまでの人間もまた、ここでは神と自然によって、自然と調和して教育されるように教育への道が一般的に示され、開拓されるべきである。フレーベルが断言するのに飽きることがなかったように、自然、神、人類の統一を生きることに、教育のすべての個々の要求の中で最も難しい質問への答えがある。庭師である教育者は、このように、種をまき、植え、水をやり、雑草を刈ることができる。つまり、このように世話をし、維持し、保護し、促進することができる。しかし、それは、常に自然の性質と神が望まれる目標に従っているだけである。すなわち、教育者が庭師の配慮でもってなし得たことは、「生命の統一（Lebenseinigung）」において、生命の法則と一致してのみ繁栄につながるのである。ここで示した綴りの「子ども＝庭」も重要である。この物の見方の目新しさは、二つの単語の分離にある。（クロスターマン、1928、S.215）。

・確かに、私たちの時代では、就学前の教育機関はもはや庭（Garten）と比較されない。しかし、それでもなお、「子どもたちの庭（Kinder Garten）の教育学」における意義を今も垣間見ることができる。それは、「幼児期の生活要素」

（クロスターマン、1932、S.83）として今も続く「遊び」のうちに見てとれる。子どもたちは、今日の組織化された日常の幼稚園生活の中でも「遊び」を通すことで、様々な個人的な活動を目覚めさせている。そこには「空想遊び（象徴遊び; ベルガー注釈）のための自由な空間が与えられているため、遊びが外から固定的に規定されない。自由な象徴遊びにおいて、子どもたちは、自らの想像上のポットやカップでお茶を飲むことができるのである」（クロスターマン、1927b、S.399）。子どもは自分の「遊び」に真剣に取り組む。子どもにとって「遊び」は、「人生の鏡像であり、後により高いレベルの課題に向き合う力と、最終的には創造的な活動に役立つ身体的および精神的な力を開発する力などあらゆる可能性を提供する」（クロスターマン、1927b、S.401）。これは、子どもの世界が「遊び」の世界であるというフレーベルと同様の洞察を裏付ける。それは、他の人間と比較することができない独特の個性を発達させるという観点を容認することでもある（クロスターマン、1932、S.83 以降を参照）。「感覚的で精神的な人間の植栽地（der Pflanzstätte sinnlich-geistigen Menschentums）としての幼稚園（Kindergarten）であるとの考え」は「幼稚園の創設者」による子どもの遊びに対する評価に基づくのである。（クロスターマン、1927d、P.226 f）

ベルガーはまた、次のようにクロスターマンについて述べている。

クロスターマンがコメニウスゼミナールを導いた 1913 年当時について、フランケ-マイヤーは、「ポスト・フレーベル」（フランケ-マイヤー、2011、S.168）の時代とし、「遊び」、「仕事」、「戯れ」の概念に関するフレーベル的見解について「貴重な分析」（ハイラント、1972、P.99）がなされたという。クロスターマンは、自らの寄稿論文において、「遊びは子ども時代に割り当てられ、仕事は後年に割り当てられる」（クロスターマン、1913、S.13）という、一般的な見方

（遊びと仕事は時間の点で異なる人間の発達の二つの段階）に対して、反対する。彼女によれば、遊びと仕事は時期を異にする営みではなく、「遊びと仕事の交代はすべての段階で人生全体を構成する」（同上）という。彼女が支持するフレーベルの幼稚園（Kindergarten）では、子どもたちの「自己活動」に関する、フレーベルの幼児教育による「恩物と仕事」の体系において、人間性のこれら二つの側面がうまく調和的に考慮されていたとされる。そのことについて以下のクロスターマンの記述が引用されている。

「二つの単語のうちの一つを削除したい人もいるが、恩物（die Gaben）は主に遊び（Spielmittel）であり、仕事は活動（Arbeitsmittel）であるという事実を見落としている。恩物の場合、用具は変わらず、常に元の形に戻るという点で、表現方法は、自由な活動である。子どもはそれに自由で遊び心のある活動をする。一方、仕事は用具に変化をもたらす。素材自体は、子どもをその中にある条件とそれが形成される法則に結びつける。建物セットで建物を作り、小板や小棒で形作ることは、フレーベルが言うように、非常に真剣で深い意味を持つ遊びとなる。裁縫や、折り畳むこと、編み込むこと、切り抜くことは、活動（Arbeit）である。これらは、確かに子どもが何かを生み出し、何かを形作る活動であるが、同時に素材と法則によって結びつけられた活動といえる。子どもの能力に課せられる要求は、これに完全に対応しなければならない。この要件が満たされている限り、子どもは活動に満足を感じ、活動は遊びに劣らないため、そこに喜びを感じる。しかし、必要な活動が自分の力を超えたり、その活動が自分の力に対して小さすぎたりすると、子どもは喜びを失う。そして、その活動は戯れとなるが、それは主体的に没入できる遊びではないということもまた子どもは経験的によく理解している。このケースのように、子ども期に最も危険なことは、遊びと活動の境界が常に曖昧にさせられていることにある。

この状態に置かれると、子どもは自己の能力を正しく発揮されない状態にとどまる。一方、逆に、遊びにおいて、子どもが内面の生を活性化するのに有益となる自由な活動が阻害される場合､遊びは戯れに退化することになる｡これは、子どもと玩具とのかかわりでよくみられることだが、玩具に内面の生を活性化させる力がない場合、たんなる戯れにとどまることになるのである。」（クロスターマン、1913、S.14 参照）

以上から、クロスターマンがフレーベル理論をどのように受容していたか、また、その理解の上に幼稚園教師を目指すゼミナールの女学生のためにフレーベル教育の要点を伝えようと情熱を傾け教授していたことが窺える。しかし、クロスターマンがフレーベル理論を重視したこのゼミナールはなぜ「コメニウスゼミナール」と冠しているのか。それはクロスターマンの経歴から読み解くことができる。彼女は、1878 年に教師試験に合格後、約 20 年間を教員及び家庭教師として働く。その過程で、ロンドンにてフレーベル思想の教育に触れ感銘を受けたことから、幼稚園と幼稚園教師ゼミナールを設立するためボンに戻る。しかし実際は叔母の女子高校（Höhere Mädchenschule）の経営を引き受けることになる。それがグルネリウスも通ったクロスターマンシェ女子高校であり、1898 年のことである。その後、女子高校運営とともに幼稚園の設立や教師養成セミナー、幼稚園教師養成セミナーなどを手掛ける。そうした中、1903 年、フリードリヒ・ツィマー（Friedrich Zimmer ）の設立した「コメニウスセミナー」をクロスターマンが引き継ぐことになる。彼女はそのセミナーの健全な発展を損なわないために、それをフレーベルセミナーと名付けることはできなかった[11)]と言う。

このような経緯から「コメニウスゼミナール」と称されたクロスターマンのゼミナールで、グルネリウスは、幼稚園教師になるため、フレーベル思想・理

論に基づく教育を受けていたのである。子どもの捉え方やその子どもに向き合う教師の役割とはどういうものか、そして遊びと活動が子どもの人間形成にどのように作用するのかを教授されたものと推測できる。具体的なカリキュラムは現存していないが、先述したクロスターマンの恩物についての言及から、グルネリウスも恩物に触れ、その意義について学んでいたことや、裁縫、折り畳み、編み込み、切り抜きなどの活動についても学んでいたと考えられる。

第二章　ペスタロッチ・フレーベル・ハウス

グルネリウスは、コメニウスゼミナールでの学びを終え、1914 年に幼稚園教師の州の認可を取得し[12)]、同年に初めてシュタイナーと出会うことになる。その後、1915 年に彼女は保育所の実習を経て 1916 年 10 月から 1917 年にかけてペスタロッチ・フレーベル・ハウスで就学したことが、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの記録に残されている。ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの図書館館長ザビーネ・サンダー（Sabine Sander 2020 年当時）は、この記録を元に、グルネリウスはペスタロッチ・フレーベル・ハウス付設の保育所で実習を行ったとの見方を示した。また、同館長には、当時のカリキュラムそのものが現存しないためその代わりになるものとして、グルネリウスが在籍していた時期に一番近い時期の入学用冊子[13)]とパンフレット“カレンダー1911”[14)]とカタログ”ペスタロッチ・フレーベル・ハウス“[15)]の三つが与えられた。さらに同館長は、当時について、幼稚園経営のためには青少年指導者（Jugendleiterin）の資格を取得する必要があり、その資格を取得できるのはペスタロッチ・フレーベル・ハウスだけであったと説明した。グルネリウスは、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスで何をどのように学んだのかを、同館長からの説明、入学用冊子、パンフレット及びカタログからグルネリウスの学びを見ていきたい。

1）ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの概要

当時、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスはハウスⅠとハウスⅡを所有し、ハウスⅠは主に子どもの保育と子どもに関する職業養成のための施設として、ハウスⅡは主に家政を学ぶための施設として機能していた[16)]。グルネリウスはハウスⅠに属していた。このハウスⅠについて、入学用冊子には、成人と子どものそれぞれが利用可能であるとし、具体的には次のような説明がなされている。

－成人用－

1. 幼稚園の女性教師、学童保育所の女性教師及び州公認の試験を伴う青少年女性指導者を養成するためのセミナー
2. 手工芸女性教師の養成のための州公認のコース
3. 臨時聴講生
4. 幼児保母学校（特別パンフレットあり）
5. ヴィクトリアハイムⅠ（ハウスⅠの女子学生のための寄宿舎）
6. ヴィクトリアハイムⅡ（幼児保母のための寄宿舎）
7. ランドハイム“フンダート-アイヒェン”、ハルツ南部の若い少女のための教育施設（特別パンフレットあり）フンダート・アイヒェン(Hundert-Eichen)

－子ども用－

国民幼稚園・調整クラス・就学の準備ができていない子どものための予備クラス・小学生のための手仕事の授業を伴う学童保育・施設の子どものための昼食と入浴施設・小学校の子どものための読書部屋・ハルツ南部の子どものためのレクレーションルーム“フンダート-アイヒェン”

グルネリウスは上記１．のセミナーを利用するために入学する。セミナーには、「幼稚園教師と学童保育所教師のための部門」と「青少年指導者のための部門」が設けられ、「幼稚園教師と学童保育所教師のための部門」は幼稚園教師コースと学童保育所教師コースにそれぞれ分かれることが説明されている。グルネリウスは「青少年指導のための部門」を受講した。

では、次に冊子に掲載されたその内容をみてみよう。

２）グルネリウスが受講した「青少年指導者のための部門」

青少年指導者のための部門

開始：10 月　― 期間 1 年

職業教育の目的：多種の幼稚園、学童保育所、託児所、学校の授業外での青少年の世話や教育のための施設で指導するための能力を育成

修了：国家の青少年指導者試験

受け入れ条件（およそ 19 歳を満たす）：

1．　女子高等学校（1908 年以前は 9 学年の女子高校）の修了証明書、または女子高等学校の試験による同等の基礎知識の証明

2．　国家の幼稚園女性教師または学童保育所女性教師の証明書

3．　施設での幼稚園女性教師または学童保育所女性教師試験合格後、幼稚園女性教師または学童保育所女性教師として実習した証明書

申し込みの提出：

1．自分自身についての簡単な経歴を 2 部作成

2．出生証明書

3．女子高等学校の修了証明書

4．幼稚園女性教師または学童保育所女性教師の国家証明書

5．実際の活動についての証明書

6．健康診断書（正当な医師の勤務公印記入のある発行による）

（2～5 はオリジナルまたは、公的な証明の写し）

この部門は毎年 10 月に始まり、1 年間の課程を修める部門であることや教育目的や目標及び入学の条件などが示されているが、グルネリウスがこの条件を満たしていることは、入学時の記録からもわかる。彼女は入学時の 1916 年

10 月には 21 歳であり、高等女子校（10 学年）を修了している。また、幼稚園教師として州の認定も受け、2015 年には保育所での実習を終えている。

続いて、当時の「青少年指導者のための部門」の養成カリキュラムを紹介しよう。

	時間配分
－理論分野－	
１．教育学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	３ 時間/１週間
２．衛生学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１
３．職業に関する学問 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	２
４．青少年と児童文学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１
５．教授法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１
自由選択：	
６．青少年保護 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１
７．社会保障 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１
	（計１０）
－技術分野－	
１．粘土・蝋などで形作る、切り抜き、身振り ・・・・	３
２．手仕事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	７
	（計１０）
－実習－	
半年 幼稚園 ┐	
├ 子どもと一緒の料理と家事を含む	12
半年 学童保育所 ┘	＜総計３２＞

カリキュラムは、理論・技術分野と実習（幼稚園と学童保育所を半年ずつ）が組み合わされた構成となっている。実習の時間数が理論・技術分野のそれよりも少し多く設定されていることから、実践教育を重要視していたことも窺える。また、この施設には女子学生が実習を行える幼稚園や学童保育所も併設されていた。

“カレンダー1911”には、当時の施設の様子が次のように紹介されている。

ペスタロッチ・フレーベルハウスの建物は大きくて美しく、風格があり、シェーネベルクの緑豊かな庭園の中央にある。その機関は常に新しい（幼稚園教師である）助手を訓練している。助手はさまざまな階層、生活条件、国から来ており、毎年その数が増えているのは、おそらくこのハウスが最良と言う証拠である。ペスタロッチ・フレーベル・ハウスは、ベルリン公教育協会を設立した。その協会は 24 人で構成され、ペスタロッチ・フレーベルハウスⅠとペスタロッチ・フレーベルハウスⅡを管理する二つの女性取締役会によって管理されている。

ハウスⅠには、最も多様な機関が含まれ、これらの機関はすべて絡み合っており、学習者と子ども双方への教育的相互関係が功を奏し、成果を生んでいる。幼稚園は、キーフロイザーシュトラッセに約 150 人の子どもたちを収容する幼稚園、ほかに 60 人の子どもたちを収容するバルバロッサシュトッラッセの幼稚園、90～100 人の子どもたちを収容するシュタインメッツシュトラッセの幼稚園がある。これら三つの幼稚園の定員は新年度の数ヶ月前に埋まるが、何人かの母親は、最終的に彼女らの子どもが通うまで 1 年待つ。願い出る人を頻繁に追い出すのは難しく、幼稚園をさらに広げることになっている。

指導と監督のための教員養成の女子学生も同様である。家具と娯楽のための手段だけが欠けていたが、彼女たちの若い心魂に喜びをもたらす幼稚園での健

康的な滞在を提供している。

さらに、将来の幼稚園教師のためのより多くの教育施設を持つために、ハウスⅠは、シュタインメッツシュトラッセの幼稚園に、ヴァルテンブルクシュトラッセの幼稚園をある種の補佐園として管理させ、そこに 50～80 人の子どもたちを収容している。また、そのほかにも幼稚園を提供し、70 人の子どもを受け入れ、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの精神で運営している。

このようにペスタロッチ・フレーベル・ハウスⅠでは、多くの子どもたちが通う幼稚園を運営し、幼稚園教師、学童保育所教師及び青少年指導者を目指す女子学生のための教育施設としての機能も持たせていた。幼稚園が子どもたちの教育の場であると同時に、若い女子学生の実践力を培う場としても重要な位置に置かれていたのである。では、この幼稚園での日常はどのようなものであったのか。グルネリウスも実習を重ねた幼稚園の日常についても“カレンダー 1911”の記述から見てみよう。

【ペスタロッチ・フレーベル・ハウスⅠの幼稚園】

－開園時間－

・9 時から 12 時までと 14 時から 16 時まで。

－保育室環境－

・子どもたちの集まりをできるだけ家族のようにする努力がなされ、すべての部屋には居心地の良い家族の居間の特徴が備わっている。

・壁には写真、窓には花や植物、カジュアルな配置の小さな椅子やテーブルがあり、おもちゃ、人形、調理器具、ドールハウスで自由に遊べるようになっている。

・巣穴には鳥を遊ばせ、瓶(Glas)には魚を泳がせ、部屋を快適にし、子どもたちの心を楽しませる。そこに滞在することは楽しく刺激的であり、現実の生活

との活発なつながりを生み出す空間になっている。

－クラスの人数－

・ほとんどの部屋で子どもの数は 12 人に制限されている。家族と同じように 3～6 歳の男児と女児が一緒に世話を受ける。したがって、兄弟の場合は同じ部屋で過ごすことになる。年長児は年少児の世話をすることに慣れており、年少児は年長児から学ぶ機会を得ている。

－保育内容－

・小さな 3 歳の子どもを含む子どもたちは、彼らの部屋を自分たちで維持管理するため、できる限りのことをする。例えば、植物に水をやること、食物を洗うこと、動物に餌を与えること、ほこりを拭くこと、木製の朝食用ボードをこすり洗いすること、人形の服を洗って吊すこと、洗濯したものを整理し、アイロンをかけることなど。

・台所で僅かではあるが、子どもたちも調理をする。特に正午を過ぎて滞在する子どもたちのために食べ物を用意する場合に、協力的な母親が彼らと一緒に調理をする。

・ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの庭で作物を植えたり掘ったりする。

・子どもそれぞれが所有する花壇で、フレーベル風の活動を行う。

・広がりのある、広々とした風通しの良いプレイルームで活発に遊ぶ。夏には、庭で、あらゆる種類のおもちゃで自由に遊んだり、砂を掘ったり、自由に走り回ったりする。

・物語を聞き、歌を歌い、詩に触れ、絵を描く。身振り遊びに伴って歌を歌うことや、頻繁に保育者によるピアノ伴奏がある。音楽環境は、それ以外に、年長の子どもたちは、ドラム、トライアングル、シンバルを使用して、わかりやすい優れたピアノ曲をリズミカルに演奏する。また、時々ピアノやバイオリン

の演奏と簡単な歌を聞く機会が与えられる。

－特別なカリキュラム－

・主に動植物界からの主題が１ヶ月間、子どもたちの関心を中心に配置される。活動と遊びはそれに関連しており、フレーベル的活動は部分的に関連している。

以上が“カレンダー1911”に記述される幼稚園の状況である。では、学童保育所ではどのような日常が展開されていたのか、同じく“カレンダー1911”より見ていくことにする。

【ペスタロッチ・フレーベル・ハウスＩの学童保育所】

－利用時間－

・放課後かそれ以降より 18 時まで。

－施設環境－

・雨天に備えた屋根付きのホールとペスタロッチ・フレーベル・ハウスの庭園のある美しく広い砂利エリアが利用可能。

・夏の間は近くにガーデニング用の畑が貸し出される。

・洗濯と入浴の設備が整っている。

・製本、かご細工、木工と段ボールの仕事のための設備が整った、ワークショップや手工芸品のための広々とした教室がある。

・あらゆる種類のおもちゃのある居心地の良いコーナーがある。

・年長の少女のための料理教室用のキッチンがあり、家庭的な活動も用意されている。

・すべての部屋は可能な限り快適な居間を演出している。一般的な大きな部屋に加えて、少数の子どもたちを集めるための小グループまたは休日用の部屋がある。それらの部屋では、特別なコーヒータイムが開催されることや一般の人々のために小さなイベントの開催やおとぎ話や絵画を見て過ごすこともできる。

・すべての部屋は明るくカラフルに塗装されていて、活動や遊びに適した空間となっている。

－活動内容－

・学校の授業後に利用し、おやつや昼食をとる。

・女性指導者の監督の下、家庭に代わる場所として居心地の良い空間で、遊んだり、寛いだりして、自由に過ごす。

・6 歳から 14 歳までの 80 人の少年少女が一緒に世話を受ける。

以上が“カレンダー1911”に記述される学童保育所の状況である。ところで、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスは、ヘンリエッテ・シュラーダー=ブレイマン（Henriette Schrader-Breymann 1827-1899)によって 1874 年に創設されている。グルネリウスが学んだ 1916 年にはすでにシュラーダーは他界し、リリ・ドレーシェルによってハウスが導かれていた。しかし、シュラーダーの精神を引き継ぎ、ハウスが発展の最中にあったことがカタログなどの記述より窺い知ることができる。シュラーダーは、「精神的な母性（die geistige Mütterlichkeit）」という概念を造り、世界に名を轟かせたペスタロッチ・フレーベル・ハウスの基盤を築いた。カタログ [17] は、彼女について次のように記載し紹介している。

「シュラーダーは、人民幼稚園（Volkskindergarten）がすべての子どもたち（彼女は、働く母親の子どもたちを明確に意味していた）の教育の中心と見なし、幼稚園が家庭の補足として意図され、ペスタロッチが言う「居間」の雰囲気と教育力を備えている必要があると考えた。この教育学的概念により、シュラーダーは、フレーベル門下生でもあるベルタ・フォン・マレンホルツ・ビューローとは反対の立場を取った。「人民幼稚園」を労働者階級の子どもたちに限定したかったからである。なぜなら、「保持される機関」の性格は維持されるべきであるが、ベルタによる全体的な教育的文脈から切り離されたフレーベルの

恩物（Spielgaben）の一方的なアプローチを通じて訓練する教育学的強化を実体験したためである。シュラーダーは、フレーベルの教育思想を、「幼い頃からの子どもが発達過程に従って、発達の助けとなるよう、可能な限り高貴な生活条件で教育される」ことを目的とした全体論的概念として理解した。幼稚園の中で行われるサイコロ、ゲーム、紙折りなどは、完全な生活環境ではなく、単なる材料であり、学校への準備のための一側面である。しかし、人、動物、植物の世話をするハウスおよび庭は、子どもたちに健康的な生活を提供する。シュラーダーは、子どもの遊びのなかに世界と自分自身の自我との教育的対決の基礎をみたフレーベルの精神は、実際の遊びの活動において、フレーベルによって開発された遊びの指示の提供と音楽/動きの活動によって刺激され、音楽/動きの活動、そして何よりも「自由な遊び」には多くの余地が与えられると考えた。

このように、シュラーダーは、ペスタロッチの提唱する居間の重要性と発達過程に応じた子どもへの関わりというフレーベルの教育理論を融合させた新しい教育構想を持っていたと言える。特に、シュラーダーの打ち出した新しい教育実践は次のように報告されている。

シュラーダーは、フレーベルによってすでに強調されている子どもの自己活動を重要視し、それを基盤におきながら、彼女によって新しく開発された系統的・教訓的原則である月次主題を子どもの生活におく保育を実践している。シュラーダーは、月次主題について「毎日繰り返される、または状況に応じて更新される子どもたちによる家庭や庭の活動に加えて、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスは非常に特定の目的とするものを次々に小さな子どもたちの仕事の中心に配置する。個々の目的物と他のものとの主な関連を習得するのに通常 1 か月を要し、季節ごとの特性を満たす必要があるため、ここで展開される活動

には月次主題としてテーマが付けられている。この活動では、子どもは生きていくために役立つ手段を、それらを知っているだけでなく、それらを適用することを学ぶのである」と述べている。

では、このシュラーダーの提唱する月次主題とはいかなるものだったのだろうか。これについては、諏訪（2010）の論文[18]に詳しい。以下に諏訪論文を参照しつつ、「月次主題」に対するシュラーダーの考えを見ていこう。

シュラーダーの著作『ベルリンのペスタロッチ・フレーベル・ハウスにおける教育方法としての家政的作業と庭仕事(*Häusliche Beschäftigungen und Gartenarbeit als Erziehungsmittel im Pestalozzi-Fröbel-Haus zu Berlin*)』（1893）は、幼稚園教員を目指す女子生徒の入門書としての性格を有し、「月次主題」における子どもの作業が具体的に示されただけでなく、幼稚園教員が配慮すべきことが細やかに記されている。シュラーダーによれば、「月次主題」は子どもに事物の本質やつながりを体験させるために重要なもので、子どもは動植物の世話を通して生命の繋がりを感じ、生活に関する作業をすることにより、他者への献身や人のために作業する喜びを体験する、と考えたのである。さらに、その体験後に、体験を通して得たことや感じたことを子どもは粘土や紙を用いた遊びなどで表現することで、「再び自身で形成する」という観点が語られる。この実践プログラムは、当初、ペスタロッチの家政的な要素を重視し、系統的に子どもの発達段階を教育構想に組み込んだ点で、フレーベルの影響が強く指摘されるが、このプログラムが生活重視の実践例として広まっていくなかで、ペスタロッチやフレーベルの理論的色彩は薄らいでいったとされる。

以上のように、シュラーダーの「月次主題」は、幼稚園での中心的カリキュラムとなっていた。

さらにシュラーダーが実践したことで、注目されるのは、大きなグループを

約 12 人の子どもたちの小さなグループに分けたことである[19]。シュラーダーは、子ども一人ひとりに対する丁寧な観察と発達把握と指導を重視したため、子どもを週に数回、決まった小グループに所属する方針を打ち出した。それは、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスで学ぶ女子学生らが「彼女らの」子どもたちの世話をするために、具体的には、彼女が担当する個々の子どもの性格や発達レベルをより詳しく観察し、その子どもたちの家庭状況（人生の背景）をふまえてより個々に応じた教育に当たる必要があったからである。以後、この教育コンセプトは、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスでの幼稚園教員のトレーニングに欠かせない要素となっていった。

また、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスは、全く新しい後代につながる教育的提案をいくつかしていることも特筆に値する。まず、1910 年に学校幼稚園（まだ学校の準備ができていない学齢期の子どもたちのために）を設立したこと、次に、1912 年に読書室（自由な子どもたちの活動として）を開設したこと、さらに、仕事仲間がローマにおいてマリア・モンテッソーリの専門教育コースに参加した後には、モンテッソーリ実験クラスを開き、1914 年にはモンテッソーリ幼稚園が開かれたことなどが挙げられる。

以上のように、グルネリウスが学んだスタロッチ・フレーベル・ハウスは、シュラーダーの教育理念を受け継ぐ保育実践が展開されるとともに、柔軟で後の幼稚園教育の原型を築く改革的風土を持っていた。

おわりに

グルネリウスの幼稚園教諭になる学びは、シュタイナーから直接学んだ幼児教育理論の他には、「コメニウスゼミナール」と「ペスタロッチ・フレーベル・ハウス」での学びであった。当時の教育カリキュラムは現存しないものの、新

たな資料（当時の入学用冊子や 1911 年当時のパンフレットやカタログなど）や関係者の話によって、当時の教育の実態に迫ることができた。さらにフレーベルとの観点からは、以下の３点が言える。

１）　当時のドイツでは、幼稚園教員の学びを得ることは、フレーベル教育学を学ぶことであった。実際、クロスターマンは、フレーベルの教育理論を基に、子どもにとっての遊びの重要性を説いた。

２）　幼稚園経営者になるためには、当時、青少年指導者の資格を有していることが必要であり、その資格が取得できる施設がペスタロッチ・フレーベル・ハウスのみであった。

３）　グルネリウスの学んだ時期に、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスは、フレーベルの教育学を基調としながらも、新しい教育学、例えばモンテッソーリ教育学を学び取り入れるなど、改革的風土をもっていた。

グルネリウスは、フレーベルの教育理論やそれに基づく実践について学びながらも、教育の革新的な時代の中にいた。今後は、本研究で明らかになったグルネリウスの教育体験とシュタイナー論およびグルネリウスの実践との考察からシュタイナー幼稚園での理論と実践の連結点を解明し、シュタイナー幼児教育の本質と全体像を捉え直すことを課題としたい。

註

1) 欧米ではヴァルドルフ幼稚園と呼ばれる。1926 年、ドイツ・シュツットガルトの自由ヴァルドルフ学校に附設されたのが最初である。

2) Berger,M.,*Frauen in der Geschichte des Kindergartens:Elisabeth von Grunelius*, 1995

（Kindergartenpädagogik－Online－Handbuch－）．Viewed 25　Apr.2014,
https://www.kindergartenpaedagogik.de/141.html　参照。

3) Buchka,Maximillian,”Geschichte des Waldorfkindergartens”Vereinigung Wardolfkindergarten(Hrsg.),*erziehungskunst frühe KINDHEIT-Waldorfpädagogik heute*-,4.Jahrgang,Heft04,Winter 2019,S.12-15.

4) 馬場結子、「シュタイナー幼稚園の教育に関する考察–フレーベル教育との関わりから–」（『川村学園女子大学教職センター年報』、第２号、25-31 頁、2018 年）

5) Grunelius,Elisabeth M.,*Erziehung im frühen Kinderesalter-DerWaldorf-Kindergarten*-,Schaffhausen,7.Auflage,1994

6) Berger M.,Helene Klostermann https://www.nifbe.de/(2022.06.28)

7) https://de.wikipedia.org/(2022.06.28)

8) Berger M.,Helene Klostermann https://www.nifbe.de/(2022.06.28)

9) a.a.O

10) a.a.O

11) a.a.O

12) Kügelgen.H., “Die erste Waldorfkindergartnerin.Elisabeth von Grunelius“,（*Erziehungskunst*, 53/1989, S.1096~1100）S.1097ｆ.参照

13) 入学用冊子表紙には、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスがドイツ帝国およびプロイセン皇太子妃殿下の保護下にあるベルリン公教育協会のものであり、その協会は、1873 年にヘンリエッテ・シュラーダー（旧姓ブライマン）夫人によって設立されたことや、指導者がリリ・ドロシャーとヨハンナ・ジッカーであることなどが記されている。

14) パンフレット表紙には、皇帝の保護下にあるベルリン公教育協会による発行であること、王族であるカシリエ皇太子妃殿下の名前が記されている。

15) ペスタロッチ・フレーベル・ハウスでの 1911 年 5 月 27 日-6 月 28 日に行われた“展覧

会カタログ”。ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの下に、ベルリンの社会教育専門学校、女性の職業の発展と書かれている。ワーキンググループ「ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの歴史」によることが書かれている。

16）上記“カレンダー1911”,S.80

17）上記“展覧会カタログ”,S.2f.

18）諏訪佳代、「シュラーダー=ブライマンの「月間主題」に関する一考察」(『人間教育の探究』、日本ペスタロッチ・フレーベル学会、22 号、2010 年

19）上記“展覧会カタログ”,S.5.

E. M. Grunelius's learning for kindergarten teachers

Yukiyo SUGIOKA

Graduate School of Humanities and Sciences(Doctor's degree program),

Hiroshima University

The purpose of this study is to investigate E. M. Grunelius's (1895–1989) learning for kindergarten teachers. R. Steiner (1862–1925) had recognized her as his successor. However, it cannot be concluded that Grunelius's practice was entirely based on Steiner's theory and practices. Exploring her educational experience will help clarify the link between Steiner's theory and her practice. In this research, the following were identified when examining the actual situation of the "Comenius-Seminar" and "Pestalozzi-Fröbel-Haus," where she studied.

1. In Germany at the time, becoming a kindergarten teacher implied learning the Fröebel education method. In fact, H. Klosterman (1858–1935) advocated the significance of play for children based on Fröebel's theory of education.

2. At the time, a youth leader's qualification was required to become a kindergarten's director, and "Pestalozzi-Fröbel-Haus" was the only facility where this qualification could be obtained.

3. During the period when Grunelius studied, "Pestalozzi-Fröbel-Haus" was based on Fröbel's educational method. However, it had an

innovative environment, encouraging learning and incorporating new educational methods, such as the Montessori method.

Grunelius learned Fröbel's educational theory and practice and developed her skills as a kindergarten teacher during a revolutionary era in education.